（別紙様式４）

令和8年11月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
大阪医療技術学園専門学校	平成21年3月1日	磯橋　文秀	〒　530-0044 （住所）　大阪市北区東天満2-1-30 （電話）　06-6354-2501
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人大阪滋慶学園	昭和62年3月1日	浮舟　邦彦	〒　532-0003 （住所）　大阪市淀川区宮原1丁目2-43 （電話）　06-6150-1301

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
医療	医療専門課程	臨床検査技師科	平成 7(1995)年度	－	平成26(2014)年度

学科又は専攻科の目的	患者治療における、検査を担っている人材として、医師と対等に話をする為、最新の知識・技術を習得する人材を育成する。また、心ある患者対応と、医療現場の運営にも提案できる人材を養成する事を目的とする。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	取得目標資格：臨床検査技師、中級バイオ技術者認定試験、サービス接遇実務検定　等

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	123 単位	101 単位	10 単位	12 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数（学生実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
240 人	187 人	0 人	0 %	6 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	69	人
■就職希望者数 (D)	60	人
■就職者数 €	60	人
■地元就職者数 (F)	44	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	73	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	87	%
■進学者数	6	人

■その他

一時的な仕事に就いた者3名

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

独立行政法人国立病院機構近畿グループ、和歌山県立医科大学附属病院、社会福祉法人恩賜財団　大阪府済生会野江病院　他

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://www.ocmt.ac.jp

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

総単位数	123 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	11 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位
うち必修単位数	123 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	11 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	11 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	6 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		9 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	7 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和8年6月30日　19:00～20:00/第2回　令和9年1月26日　18:30～19:30
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

委員の方々へ教育成果に関わる学校行事（卒業研究発表会等）への参加案内

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
橋本　勝信	学校法人　大阪滋慶学園　常務理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
礒橋　文秀	大阪医療技術学園専門学校　学校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
中道　真樹	大阪医療技術学園専門学校　事務局次長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
小川　正子	大阪医療技術学園専門学校　教務部長／薬業科学科長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
松田　貴文	大阪医療技術学園専門学校　医療秘書・情報学科／専攻科学科長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
重松　康之	大阪医療技術学園専門学校　臨床検査技師科学科長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
飯塚　稔	大阪医療技術学園専門学校　医療心理科学科長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
北田　覚	大阪医療技術学園専門学校　鍼灸美容学科学科長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
小川　れい	大阪医療技術学園専門学校　言語聴覚士学科昼間部学科長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
藤本　光輝	大阪医療技術学園専門学校　言語聴覚士学科昼夜間部学科長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	―
石本　良之	医療秘書教育全国協議会　事務局長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
西　基之	一般財団法人住友病院　医事室室長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
遠藤　雄一	近畿大学　薬学部	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	②
今中　伸行	協和商事株式会社　取締役社長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
佐藤　信浩	大阪府臨床検査技師会　理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
樋口　武史	彦根市立病院　臨床検査科科長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
久保　俊仁	公益社団法人大阪府鍼灸師会　副会長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
松下　美智代	Acupuncture　BISHIN　代表	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
山口　羊一	奈良県言語聴覚士会　理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
髙橋　浩平	日本赤十字社　大阪赤十字病院	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
榊　智史	医療法人　平谷こども発達クリニック	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
松永　かなえ	一般社団法人Office Career Navigate　理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①

西川　孝	NPO法人　東成精神障害者を支える会　理事長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

社会の動向や業界のニーズに合わせて実習先の追加・変更等を行う。

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
臨地実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	患者や医療従事者と接することで社会人として自覚させ、就職しても困らないための実地訓練をする。	市立岸和田市民病院、大阪赤十字病院、日生病院、南大阪病院、大阪医療センター等　計36施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修等は、学校法人大阪滋慶学園として、教員研修規程を定め実施する。教員の研修は計画を立て行い、教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させると共にマネジメント能力を含む指導力の習得、向上をさせるために行う。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	第75回日本医学検査学会	連携企業等：	日本臨床検査技師会
期間：	令和7年9月26日・27日	対象：	臨床検査技師
内容	今、命を未来へつなぐ ―イノベーションへの架け橋―		

研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	日臨教近畿中国四国部会定例総会・研修	連携企業等：	日臨教近畿中国四国部会
期間：	令和7年5月27日	対象：	協議会関係者
内容	学生教育における生成AIの活用とその注意事項　など		

研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　第76回日本医学検査学会	連携企業等：日本臨床検査技師会
期間：　令和8年5月22日・23日	対象：臨床検査技師
内容　開拓、そして共創へ ～地域と多職種で挑む進化 Synergy in Evolution～	
研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	
研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　第21回　日本臨床検査学教育学会学術大会	連携企業等：日本臨床検査学教育協議会
期間：　令和8年8月4日・5日	対象：協議会関係者
内容　叡智と実践～しなやかなマインドセットを育むために～	
研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	
研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
（1）教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
（2）学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
（3）学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。　※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

（4）教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているこ	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
（5）教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
（6）教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む。）。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

（3）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
西　基之	一般財団法人住友病院　医事室室長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
今中　伸行	協和商事株式会社　取締役社長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
松下　美智代	Acupuncture　BISHIN　代表	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
佐藤　信浩	日本赤十字社　大阪赤十字病院　臨床検査科部　技師長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
山口　羊一	奈良県言語聴覚士会　理事	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
西川　孝	NPO法人　東成精神障害者を支える会　理事長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
久徳　健三	大阪市北区堀川連合振興町会　会長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	地域
近田　直人	こんだ直人教育研究所代表（元平野高校教頭）	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	高等学校
野入　英治	卒業生	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	卒業生
采井　章浩	卒業生	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	卒業生
下田　歌織	保護者	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.ocmt.ac.jp/gakko/jyouhou/		
公表時期	令和8年7月31日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.ocmt.ac.jp/gakko/jyouhou/		
公表時期	令和8年7月31日		

授業科目等の概要

	（医療専門課程 臨床検査技師科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			化学	検査の基本となる秤量法や試薬の調整をするための濃度計算など分析の基本を学び説明できるようになる。	1前	2	○			○		○		
2	○			生物学	細胞の成り立ちや発生、遺伝の基礎などを説明できるようになる。	1前	2	○			○		○		
3	○			倫理学	医療に対する倫理・患者への倫理を学び、倫理観を身につける。	1前	2	○			○			○	
4	○			心理学	心理学の基礎的な仕組みや用語について説明できるようになる。	1前	2	○			○			○	
5	○			社会学	社会的に必要な知識・教養を身につけ、説明できるようになる。	1前	2	○			○		○		
6	○			人間関係論	人間関係構築の構造やスキルを身につけ、実践できるようになる。	1前	2	○			○			○	
7	○			英語１	英語の基礎学力を確認し、医用英語の基礎を身につける。	1前	2	○			○		○	△	
8	○			英語２（国際臨床学含む）	国際的視野を身につけると共に英語による簡単なコミュニケーションが取れるようになる。	2前	1	○			○		○	△	
9	○			英語３	英語の応用力を身につけ、基本的な日常会話が理解できるようになる。	2前	1	○			○		○	△	
10	○			医用英語	医療分野で必要な英語力を身につけ,病院での簡単な英語での会話が理解できるようになる。	1後	2	○			○		○	△	
11	○			保健体育・健康科学	体の構造を理解し、健康を維持させることと、健康に対する知識を持つようになる。	1通	2	○			○		○		

12	○			解剖学	ヒトの細胞から組織臓器までの構成や組織の役割を理解し臓器個々の特徴を説明できるようになる。	1通	4	○		△	○			○	
13	○			生理学	基本的な生体反応を理解することにより疾病に罹ったときの身体の反応を考えることができる。	1前	2	○		△	○		○		
14	○			生化学	基本的な化学反応を理解し、生体は化学反応により維持されていることを説明できるようになる。	1通	2	○		△	○			○	
15	○			病理学	疾患の原因と罹患後の影響について説明できるようになる。	1前	1	○			○			○	
16	○			微生物学	微生物の構造や種類および病原性について説明できるようになる。	1後	1	○			○		○		
17	○			血液学	血液の発生学について学び、赤血球、白血球、血小板の機能と役割を説明できるようになる。	1後	1	○			○		○		
18	○			免疫学	免疫機構を司る細胞や生理活性物質について理解し、その仕組みを説明できるようになる。	1後	1	○			○		○		
19	○			薬理学	薬物の作用や副作用、検査値への影響が説明できるようになる。	1後	1	○			○			○	
20	○			公衆衛生学１・２	疾病・感染症の予防、健康増進の法律や制度について学び、予防医学の考え方を習得する。	1後3後	2	△		○	○		○		
21	○			保健医療福祉総論	医学の歴史から現在の医療体制などを説明でき、医療人として考えを述べることができるようになる。	2後	2	○			○			○	
22	○			医用工学１・２	基本的な電気の知識や医用機器の取り扱い技術と安全な使用法を理解する。	1後3後	2	○		△	○			○	
23	○			情報科学	コンピュータ原理を理解し、基本操作ができるようになる。	1前	1	○		△	○			○	
24	○			検査機器学	医療機器の使用方法と簡単な構造を学び説明できるようになる。	1前	1	○		△	○		○		
25	○			臨床医学総論	肺疾患、腎疾患、循環器疾患などについて概要治療まで理解し説明できるようになる。	1後	3	○			○			○	

26	○			臨床検査医学総論	各疾患について検査データの解析と診断方法を説明できるようになる。	2前	2	○			○			○	
27	○			病態解析演習	課題症例の検査値やその他のデータから疾患名を推測できるようになる。	3後	2	○			○			○	
28	○			血液検査学１・２	血液成分の基礎を学習し、各種血液検査法によって血液疾患を解析できるようになる。	2通3通	4	○		△	○			○	
29	○			解剖病理学	病理検査学を学ぶ上で必要となる解剖を理解し、人体構造を説明できるようになる。	3後	1	○			○			○	
30	○			病理検査学１・２	細胞、組織を染色して顕微鏡で観察し、組織変化から疾患を考え説明できるようになる。	2通3通	4	△		○	○		○	○	
31	○			一般検査学１・２	腎臓の構造、機能と尿検査について学び、尿検査の原理とデータを説明できるようになる。	1前3後	2	△		○	○		○		
32	○			寄生虫検査学１・２	寄生虫の生活史や感染経路などの知識を学び、検査方法を習得する。	2後3後	2	△		○	○			○	
33	○			臨床化学	血液成分の無機質について測定法を学び説明できるようになる。	1後	1	○			○		○		
34	○			臨床化学検査学１・２	血液中の有機物・無機物の測定法及び、検査で使用する放射性同位元素について学び説明できるようになる。	2通3後	3	△		○	○		○	○	
35	○			免疫検査学	人体の防御システムである免疫について理解し、免疫学的検査ができるようになる。	2通	3	○		△	○			○	
36	○			染色体検査学	染色体の基本と染色体異常について学び、その検査技術を習得して説明できるようになる。	2前	1	○			○			○	
37	○			遺伝子検査学	遺伝子と遺伝子異常による疾患を理解し説明できるようになる。	1後	1	○			○			○	
38	○			遺伝子分析検査学	血液からＤＮＡを抽出しＤＮＡの性質およびＰＣＲなどを用いて遺伝子検査を説明できるようになる。	2通	2	○		△	○			○	
39	○			微生物検査学１・２	各種微生物の概要と性状を理解し病原微生物の同定検査ができるようになる。	2通3後	6	○		△	○		○	○	

40	○			輸血・移植検査学１・２	輸血および移植に関する基礎知識を修得し、輸血検査ができるようになる。	2前3通	4	○		△	○		○	○	
41	○			生理機能検査学１・２・３	心電図や脳波などの生体機能を測定する検査の原理やデータの見方を説明できるようになる。	1後2通3	7	○		△	○		○	○	
42	○			画像検査学	超音波・ＭＲＩなど画像にて診断する検査の基礎知識とその検査法を説明できるようになる。	2通	3	○		△	○		○		
43	○			精度管理学１・２・３	検査に必要な管理法と精度の評価方法が説明できるようになる。	1後2前3	4	○			○		○	○	
44	○			検査情報処理科学	コンピュータでの集計や統計手法を身につけ、データ管理ができるようになる。	1通	2	○		△	○			○	
45	○			検体採取処理技術	検体の正しいデータを出すために必要な保存方法や採取方法を学び、正しい検体採取ができるようになる。	1後	1			○	○		○		
46	○			医療安全管理学	検体採取における注意点や感染対策、リスクマネージメントについて学び、安全な医療提供に必要な知識を身につける。	3後	1	○		△	○		○	○	
47	○			総合技術演習	臨地実習の前に身につけておくべき知識・技術について実践する。	2後	1		○		○		○		
48	○			臨地実習	検査の知識・技術の習得、医療人としての心構えを身につける。	3前	11			○		○	○		○
49	○			国家試験対策	国家試験に必要な知識を学び、模擬試験等で国家試験に合格できる学力を身につける。	3通	2	○			○		○		
50	○			総合演習１・２・３	応用力を身につけて、習得した知識・技術を更に向上させ、自身の将来像を描くことができるようになる。	1後2後3	9		○		○	△	○		
合計					50 科目			123 単位							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	学則及び学生規定・臨床検査技師科教育評価規定に則り、試験評価60点以上、授業日数の85%以上出席等から認定を行う。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	全て必修	１学期の授業期間	15 週